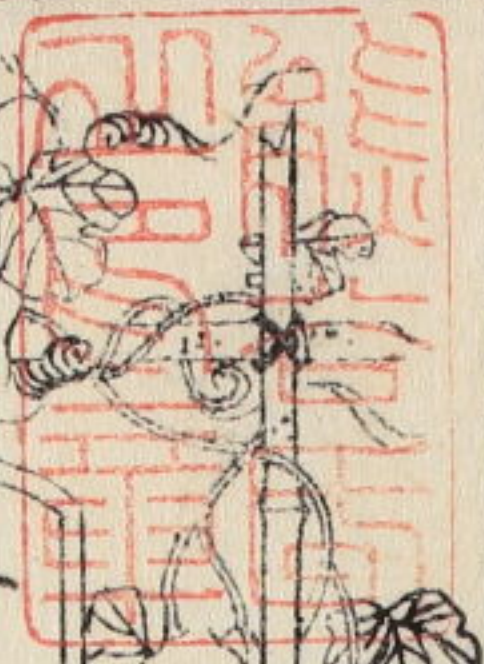


繪本豐臣勲功記

三編  
八

4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8



繪本豊臣勲功記三編八之卷

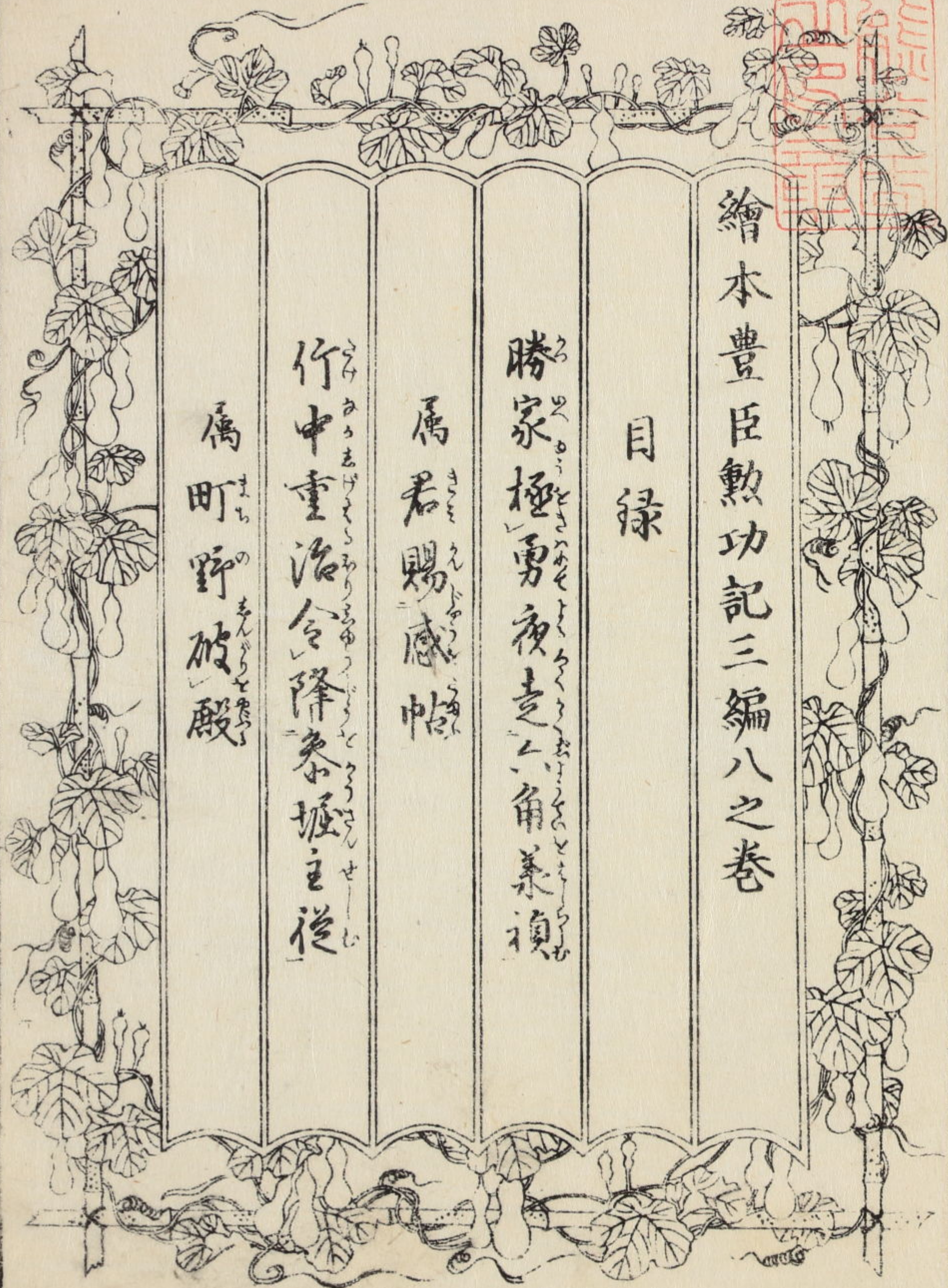
目録

勝家極勇夜走六角義禎

属君賜感帖

竹中重治合降参堀主従

属町野破殿



後井長政與諸士譚決戰

馬遠藤辭別

磯野員正敗織田五郎隊

馬秀吉感歌



繪本豊臣勲功記三編卷之八

櫻澤堂山編輯



勝家極勇夜走六角兼復馬君賜感帖

撤奠斗升の水を求む。莊周こま小報る小西江の水を  
湛へんとりふ是成産れ歎。さうらん。厥をもて難しとるさる  
りはハ。強小藤吉郎秀吉あり。然れど小進公六角佐々木の  
陣中ハ今日柴田が謂つること也。誠ありと意納く當城の  
居去も遠うるはし。今ハ全く安穩あり。とさぐら許容さる  
侮亡。要心もせぐ。在さる小より。惣軍五千有餘人。糧ハさるあり  
單衣さ。被もせぐ。熟睡せ。下ハ柴田權六郎正魁ふら  
斬投ハ。あま小継。乃士軍ハ。食是一張。當千あり。五百有餘

騎城せつら。おひひの義城せうち。振四角八面小近口は  
 六角方の軍勢へさつら。群蟻の洪水小懸流さう心地  
 してまご目覚めぬ輩も有り。覺ても劇く途を失ひるる  
 武士の敵、自軍うん分もやらぬと道、さう小同士殿もこと敷  
 知まむ柴田が勢へ細より。戦死と心を決し、さう小ぞ怖る氣は  
 たに軍のまば千変易化の擡きさるふ。その降先の活死こと勿  
 弛向ふ事あり難く。こまがこめ小進の軍勢。五千有余騎あり  
 ながら。さう。髪もかく崩落を。得らや。應と猪家を従南  
 西小東小突破さるること。電光石火より猶疾く。遂小進をハ  
 近惱まこれ。傍僅小敗走を。兼領入道大少怒り。多寡の智  
 づる。城共小多くは。自軍が。酌量。脆く。撃破らるる事やあす。

細もさやつと。呼まま。さう。誰か一個止るま。所ぬ風と。逃さる  
 り。之雲吉田永原田中候。大將のた右小引副て馬の首を立  
 懸を。そまことつらより。柴田猪家。おの小懸少く。勅下ハ兼領入  
 道と。か。が。つら。對さる。敵も。敵小こそ。それ。宇多源氏の嫡流の  
 りぞ。柴田が。圖魔の。土屋小せん。殿。捉ら。ぞ。や。さ。う。か。づ。れ。と。と  
 體も。敢ぬ。小。突と。進。む。は。六。角。兼。領。の。ま。じ。と。弁。鞭。う。つ。て。引。退  
 く。柴田の。お。ま。ま。を。漏。さ。と。と。驥の。像。く。趁。落。ま。は。と。雲。新。た。ら。つ  
 ぐ。弟。同。苗。之。帝。た。ま。の。只。單。騎。捨。て。返。し。て。殺。卒。を。烈。ほ。し。新。を  
 見え。若。し。自。軍。の。奉。止。を。江。源。氏。の。名。お。も。か。り。を。逃。る。括  
 憾。さ。よ。返。せ。く。と。自。懸。を。指。揮。さ。し。槍。を。志。さ。ひ。弛。向。ハ。柴。田  
 を。是。と。恥。と。見。て。意。や。さ。し。や。昔。子。小。入。ら。ん。と。い。殊。猪。あり。織。田

の河内小鬼と呼す。柴田權六并後家あり。死す。其時  
 黒の鬼は呵責小逢もぬ先小中ら鬼柴田が太刀風を交て  
 絨よりやと呼たりむら血を汚隙をを深成せし。大さるり  
 おげ殿て蕙る。之帝た傷つ得たりや。と問く太刀を抜合せ  
 十合たり戦ひし。柴田の関あり大カあり。殊少の合曾を  
 現世の初とかりひ決して殿太刀を是ば不得の之雲と帝た  
 串つ関様て臂面を鼻莖くけり。刃割を此も堪へてを  
 小馬より撞と落り。を柴田が老黨走傍。おこりも起む首  
 と振る。勝家おかも極威を振ひ。醉象の波小狂ふが如く怒  
 獅の巖を裂く小似たり。これがこめふ六角燈。一騎も遮へて戦ふ  
 軍おく。ち力風小散る木は景武者。秋あらねども紅を平足小

深て敗走を。之雲吉田依懸断せり。踏止く辛ふ機合り  
 ら。鞍江の城小凝ちし。云軍木下がこめ小退出され喘ぎく走  
 着。兼禎のま小流き。孫吉舟小編らま。をや城中へ礼入  
 せら。是。牢株かとく危し。と江伸を所て入道。主後膽棄これ  
 たる計小愕き。そま。系五をて。さ。急げと指揮する。を  
 不へ。鞍江相換ち。言。瀨刑部。趨く小ありて。連乗る。割小狼狽  
 こまも又。敵。云ありと心得く。跡も見むして。一里を。是。を。空小  
 一。落。道。一。が。よく。見。ま。バ。將。依。あ。る。由。へ。紐。て。安。途。一。は。ま。共  
 總。江。小。投。こ。と。慥。ま。を。遠。く。石。部。の。城。小。逃。客。り。自。軍。に。兵  
 と。兼。ふ。れ。バ。紐。五。千。と。所。一。も。百。四。五。十。騎。小。過。ざ。り。り。遠。响  
 勝。家。公。士。を。纏。め。長。追。ひ。を。殿。提。る。敵。と。う。ご。入。ま。バ。之。百。余



豊臣の注伸と  
 聴く兼禎  
 惣敗とらる



級其外外小小分分捕捕の益益あり得得。再度再度城中城中を修復修復す。諸士諸士の功功を大大小小賞賞し軍軍の次次を以以て殺殺得得。級級取取齋齋せ。故故阜阜小小饒饒りて信信長長の實實檢檢小小容容らじ。大大將將大小大小感感賞賞せらる。柴柴田田が戦戦功功初初小小あらねど。遠遠遭遭ハ別別く比比類類なし。拔拔群群の大大功功あり。信信長長自自筆筆の感感帖帖を賜賜り。腰腰禁禁裏裏へ奏奏聞聞を遂遂修修理理少少進進る。任任を贈贈り柴柴田田が遠遠く。城城使者使者小小不不破破彦彦之之相相添添て長長光光寺寺の城城へ返返され。柴柴田田城外城外より出出途途へ不不破破を本本丸丸へ請請り。容容信信長長の感感帖帖を拜拜見見する。小小

今今度度於於長長光光寺寺依依々々本本六六角角以以大大軍軍一一攻攻圍圍之之處處雖雖為為小小勢勢能能盡盡防防禦禦之之術術教教日日之之牢牢城城既既中中破破

水水桶桶勵勵士士卒卒斬斬崩崩六六敵敵堅堅固固被被守守之之條條似似韓韓大大元元帥帥對對水水智智勇勇之之程程絶絶感感賞賞為為其其賞賞補補任任修修理理少少進進猶猶不不破破彦彦之之可可申申假假也也

元徳元年六月七日 信長判

柴田修理少進との

勝家勝家こそを續續了了。意意君君恩恩のあり。や。形形感感帖帖を賜賜り。も門門心心を一致一致し。防防戦戦なり。校校ぞし。愈愈一一回回小小以以載載せ。とて。五五百百余余人人小小拜拜見見させ。此此功功本本これ本本下下が懸懸江江の城城に。臨臨せ。由由この愛愛も知知らで過過り。行行中中重重治治令令降降系系場場主主後後属属町町野野破破敵敵人人和和せ。ん。事事成成らむ。誠誠ある。浅浅井井父父子子心心一致一致あり。さ

了せ。評定遠小熟を導く。朝倉家より加勢あきごも  
 事調をせし。説氣を撓まし。加之、角兼禎、長光寺の軍敗  
 きて、懸江をさら棄置られ、信長再び江別へ出馬あり。凡  
 説ひき。防戦の準備をくんべあらず。諸方の城へ、兵士をひた  
 願。そまぐせ。守らむ。まづ江濃の境なる長久山、刈安の両  
 城へ、朝倉の加勢。式部正系、境を大將として、急使備前守  
 山崎長つち、福岡石見守、蓮華右京亮、溝口河内守、依  
 之千余騎を率城させ、今別口、長亭軒、篠丹の城、小の堀、次舟  
 大將として、樋口之舟を、多羅尾右近を、後見せしむ。備又  
 本陣の城中へ、黒田長吉、衛小こまを、せしむ。横山城へ、大切あり。と  
 て、大野木、出佐、之田村、肥後、野村、肥後、同、倉庫、願、依

と、初として、江小、隨一の勇士を、擇み、牢く、然と、對敵、ちらと、遠  
 响、波、阜の、城中、の、彈、正、忠、信、長、の、江、伸、と、等、し、く、江  
 別、境、頭、へ、進、發、せ、し。渠、傾、を、昂、時、小、政、着、を、中、と、お、ご、そ、う、小  
 陣、徇、し、た、多、ひ、速、小、軍、備、を、懸、へ、曉、ま、六、月、十、日、波、阜、の、城  
 を、出、馬、あり。然、る、に、本、下、藤、吉、舟、の、長、濱、の、城、に、立、ち、し、り、竹、中  
 重、治、と、膝、突、侍、せ、淺、井、が、構、へ、要、崖、の、刈、安、長、久、山、の、兩、城  
 を、うち、破、ら、ん、と、ぞ、懸、し、り、る。响、小、半、吉、衛、重、を、や、う。刈、安、長、久、山、を  
 攻、ん、し、り、の、長、亭、軒、小、對、敵、守、一、堀、を、將、佐、小、勾、引、の、朝、倉  
 堀、へ、攻、む、と、も、お、ら、ず、恐、怖、し、ま、さ、を、べ、し。彼、堀、次、舟、と、り、ふ  
 人、の、遠、江、ち、が、堀、男、の、ま、ご、も、今、年、を、つ、く、小、八、歳、あり。次、舟、が、後  
 見、樋、口、と、り、重、治、舊、交、の、好、あり、為、撥、て、試、申、べ、し。堀、を、將、佐、申

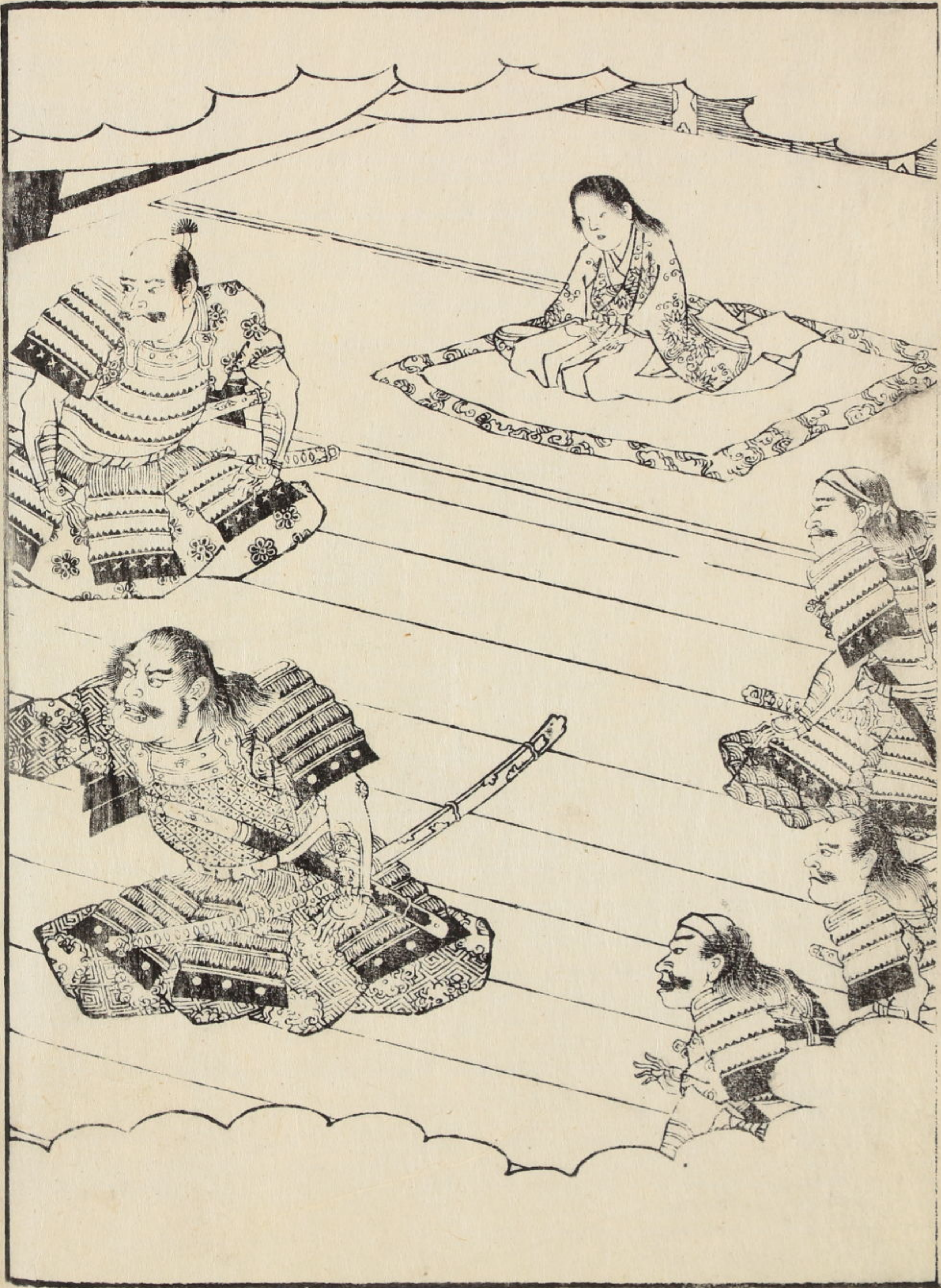


乃バ刈安長久山ハ織田の握掌あり。先系らんとうち起る小  
 秀吉殆歎悦々。宜しく謀らひ玉ひねじし。竹中を送り出  
 たり。重治後者せぬ。是之具。直地小篠又の城小趣き。桶小  
 逢人と言投る。之舟を渡こまを。所誠小竹中重治とハ竹馬  
 の交ありといども。方僅ハ通小吳越と隔たり。私の對面憚り  
 ありと。返答をせり。半雲流重治。城門をく。舟倚。今天桶口  
 刀稱小逢人と。重を私の談話小あらむ。次舟殿の舟流を  
 ぞんと。系向を。つり。此のまも。微も憚り玉ふ。及。然り  
 といども。小出城の事。舟難。さら。重治。城ハ入  
 たり。とて。言。所。心。之。舟。多。思。緯。所。し。と。我家小通  
 對面の穉儀を。り。の。ち。重治。あ。ふ。云。費。り。今。日。暮

乃系向。同。系。を。詞。外。なら。を。足。下。幼。主。を。守。護。せ。り。ハ。堀。家  
 の。繁。昌。と。お。が。し。ぬ。を。欽。开。も。又。滅。亡。と。思。召。歎。竟。滅。亡。願。を  
 するまじ。堀家。繁昌。と。かり。ひ。玉。を。速。く。信。長。小。一。身。一。玉。へ  
 剛。々。滅。び。ん。と。し。凌。井。小。將。佐。一。借。小。家。命。を。失。ふ。と。も。誰。が。大  
 臣。と。感。稱。を。死。別。祖。父。を。能。登。る。親。父。小。ま。し。ぬ。を。遠。望。す  
 いづきも。凌。井。累。代。の。臣。家。と。い。ふ。小。も。あ。ら。む。徒。一。端。の。時。機。小。り。  
 其。旗。下。小。属。を。事。ハ。當。時。一。同。の。習。流。あり。こ。ト。け。さ。く。も。日。本。を。天  
 照。大。神。の。所。束。小。し。て。百。王。一。姓。の。神。國。を。ま。バ。執。り。王。臣。を。さ。さ。る。べ。死  
 然。に。凌。井。も。朝。倉。も。玉。威。を。惶。ま。を。將。軍。を。殺。ま。ん。と。自。己。を  
 の。榮。華。小。任。せ。り。國。恩。を。忘。却。を。事。滅。小。國。賊。と。謂。つ  
 べ。こ。國。賊。小。將。佐。し。て。戰。敗。を。て。戰。死。せ。り。骸。の。上。に。石。厚



竹中重治  
 明吉と  
 めんく  
 堀主従と  
 伏さ  
 しむ



豊臣三綱卷之

と受ん小然とてハ又朽憾うらむ事。乃長と足下とハ舊好この  
あるをりて信義の情志を通せんとの参連つりしはさき  
さも心底小得まわらむ。深く考へ玉ふべし。長居の連のこめ  
みらじと起んとさるせ樋口推こめ大息継でまゝさるる我誤  
ちりく。足下の教導なりせが國賊一才の汚名の下小主従も  
あるも戦死なり。亦く家名も断絶せん。方儀ハ何をう猶縁  
ひまをば速小足下と悟こ主命を奉とまわらせんが姑くは  
至もさして多羅尾右とを呼出し。竹中が教解をりてありは  
まゝに結らひられ右道も逆らふ道なして一身同心なり。乃  
ゆ一竹中と共小らち伴立長深の城小参向し。降参のし  
と意を小より。本小殊小躍収り。本領安途相遠ひは糸

堅く志をば治米なり。降参の發を顯さまよこ方便せ  
し。一て返さまされ樋口依藤又の城小立し。織田家小  
従ハ淺井家小宵くは色と顯し。され刈安長久山小旗  
さる。朝倉の参士大小驚死。堀次舟敵とまりて。此城安  
も持得ること能ふまじ。他の軍小加勢し。徒損をとも合  
さりけを遣うん事如とて。魚住山崎正魁小あり城を捨て  
落行り。こま小固く。信長が江別費向の路次用け。今こを出  
のたよりよけと。精名と参有余人。曉し小勇んで赤せ。参ひ同  
十八日の雨次こら小。近江の國あり。柳田村。西山村を急陣し  
さる。响小本下孫吉郎。樋口多羅尾を伴ふ。信長小目え  
ひさし。本領安堵の所書を戴き。江北の地は河案内まを

豊田訓三編卷之八

九

べしとぞ言出たる。次小竹中を引出さる。樋口を將佐小属  
 たりたり。褒賞ありとて馬糧太刀などの賜あり。日本下小ハ  
 別懸小原江新獲詞をじしむ。然バ小谷へ推考て一戦とべ  
 一と宣ひたりと。秀吉言上なりつるやう。小谷ハ浅井の居城  
 ありて要崖堅固ありのめりむ。公士も多く籠りたり。所獲  
 利のことおがつかさ。唯攻易きハ横山あり。まづ遠城を隔て  
 小谷へ向てを至る事と。練めぬれども所害ありとぞ。是非小  
 谷を攻べとて。曉は六月十九日。城攻の分部を定めらる。  
 織田上野ハ信包丹羽五郎左衛門長秀。水野下野ハ信元。佐  
 藤次郎ハ案内者と。三千余騎の公士を與へ横山面を懸  
 守おた坂井右を森之左衛門。柴田修理進依く内藏助。柴田又左

柴田市橋九郎左衛門。佐藤六左衛門。堀本小大膳。以下の勇士を率  
 從へ小谷の城の面向る。虎冲若山と本陣とせり。浅井長政  
 乃息を祈願ふ。取の便幸なる。疾弛向ふて散散さんと。號む  
 と久政堅く制し。これを評さりし。止事を得ざる。まうたりや。  
 既小廿一日小ありたり。小谷の街へ亂入し。土家を放火し。糧  
 藉せしと。長政父子こそ小款せず。信長大小號と。號び一  
 輪つけさる心地や。こて。當夜ハ虎冲若山小宿陣あり。翌日  
 とも籠り鼻へ拵陣なり。横山を攻んと定められ。つる。浅井  
 方小ハ遠藤喜右衛門。主君父子と。大小勅め。信長明日拵  
 陣せんことを。遂撃するに必と。勝んと。理を説道と。辨むるも。久政  
 更小兼引せざれば。懸断をさして。退出し。刺りの事小朽憾ハ

町野若狭守の  
猛軍信長の  
轉陣を  
逐撃す



△町野の氏  
假名討つ  
まよひ討つ  
まよひ討つ  
のこま

まよひ町野若狭守と叫出。明朝うらむ織田信長虎河津を  
還まをらん小切を足下自衛を率ひ。斯く討く退撃し玉へ  
勝利疑ひあふべしと。方術を志めて初めまよひ原集傑氣の  
若狭守也へ望むところと雀躍す。秋の深きを待居る  
諸信長へ翌廿二日曉天小序河津山を退拂えんと準備  
する際小夜の曉やま。時刻近づけり小よ。信長頼  
浅井家の出合ぬ事を不審小よひ退撃をやささん  
をらん殿強ひくんバウらじと。佐く中条。築田をりてその  
軍役小當させ玉ひ。圍をむせく。若後を定む一番の隊  
を築田左衛門二番へ依く内藏助。三番へ中條將監あり。  
然して信長殿々小隊仗を立力を勸せんと。柴田を加へ

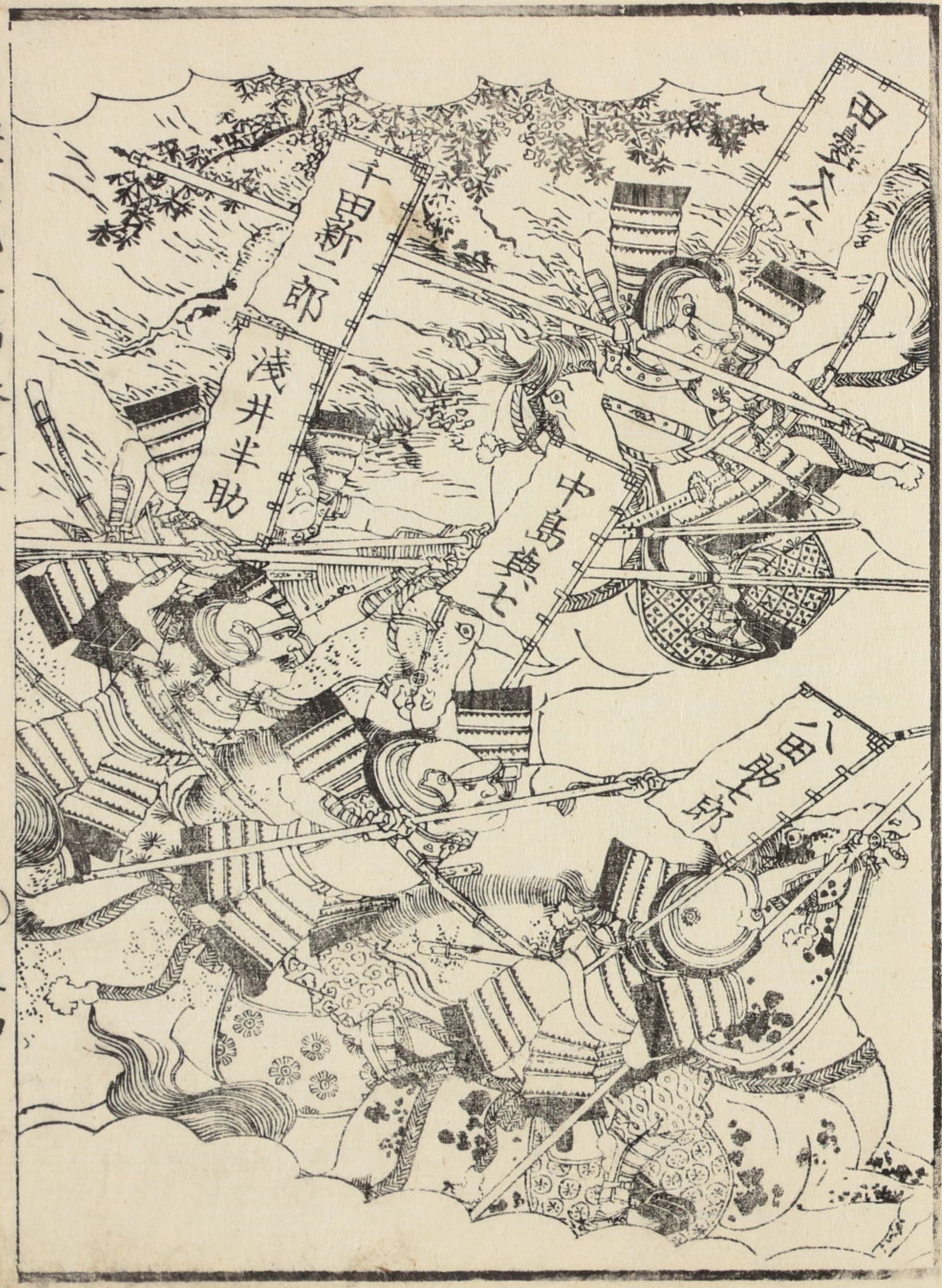
一千余人獲くことと。還陣を茲小町野若狭守ハ方僅織田  
勢の退せ入て自勢五百を外小多賀若宮の孫官を  
荷擔らひ。一子余騎を一隊をなす。織田の殿強へ馳射す  
勢とと沖投り。築田左衛門纏りし。覚悟をりしと  
まよひ面て返して。標合火水小よりて戦ひたり。方術ハ遠ごと  
若狭守。緒勢を指揮して。綱と還築田もことと退きり  
かれバ二番小備へ。依く内藏助成政。展轉て殿を登町  
野が陣中をまよと見りし。子田新次郎。阿国彦九郎。細部  
久吉衛。八田助七郎。田色久六。中鴻興七。浅井守助。之れ余  
人。槍先をらへく。搦突を依く得たりと。鑓筒間へ待て  
織田は。旗をよ。津田金右衛門。生駒八右衛門。平野甚右衛門

書目記三編卷之八

十一



虎御前山の  
殿まが駈が小  
中条又兵衛  
浅井の五將と  
血戦と





止り。喫て蒐る町野が勢を一個もあへに進ませと憤怒を發して戦ふ小を。裂石拔山の糧威するごとく。浅井の兵士多しといへども。又々衛一個小新起られ。隊伍をたらしめり。自ら軍の耻を見せんと。浅井半助中鴻興七八回助七角。田邊久六。千田新次郎の五騎一役小。あましのせと。又々湯を正中小單人。攻むるに。中條が才も。深く浅く。數箇不小。兵を。負危や。段まんと。とる。不へ。柴田修理進取。返。浅井が。突て蒐る。中條こそ小力を得。踏越く。戦ふ。不へ。信長。も。覺え。東。と。や。お。が。し。ゆ。ん。多。院。の。兵。士。五。百。人。を。柴。田。申。條。に。加。勢。し。玉。ふ。然。る。敵。士。を。撃。強。直。その。際。小。退。を。指。揮。し。玉。ふ。心。得。と。り。と。五。百。の。兵。士。五。百。余。挺。の。筒。領。と。り。

正黒小撃起る由へ町野が隊伍の兵士ども。癪と驚る。は。鮮。くらむ。又。由。く。さ。死。へ。烟。は。廢。た。る。東。西。も。更。小。人。へ。二。う。の。軍。も。最。己。これ。ま。り。退。收。よ。と。若。使。ち。兵。士。を。纏。め。て。退。陣。し。玉。ふ。柴。田。中。條。も。率。挑。む。捷。減。つ。つ。て。退。て。行。り。町。野。が。隊。小。う。の。敵。の。兵。士。二。百。餘。挺。り。玉。ふ。後。田。方。小。て。段。提。し。玉。ふ。二。百。余。挺。と。記。さ。ま。り。

浅井長政與諸士彈決戦。属遠藤孫孫別

擊鼓一志よく四方小達を。信長既小虎。赤と退く。不。及。ん。で。緒。隊。へ。指。揮。を。傳。ふ。傳。至。る。不。及。れ。が。由。へ。小。隊。伍。の。次。才。を。案。さ。だ。し。て。慎。く。と。推。通。す。能。が。鼻。へ。河。陣。を。移。さ。る。能。も。遠。道。依。り。中。條。築。田。の。之。將。と。く。戦。ひ。敵。死。せ。し。故。

ぞろしこも小依く織田殿も厚く武功を賞與せられ  
 當夜ハ諸勢を休ませ玉ひ曉をバオ二日の登天と可  
 余騎の大軍少く。横山の城を攻らまじり。丹も遠城也  
 浅井の勇將之田村左忠を以て國定野村肥後と定元同共  
 庫領直次大野本左作と秀俊依一千餘人凡も満さぐ  
 對敵守。賸矢丸も多かりければ進兵の大軍を事ともせむ  
 嚴しく防戦する小よらて有係小極き織田勢も極畧の凌  
 かさぐしとのひ姑く虎口を退去て人馬の息を次せり。勢亦  
 京都より河加勢あり。既小龍ヶ鼻へ所着り。信長より  
 かく敵をまき大小續應へてまふ。こも小依く織田勢ハ  
 むひまをく盛平へ。然ハ遠城と二日之内小攻臨さんと指揮

せらま息をも續や接起り。いふ不要産牢しとのこも城  
 次小旁を生じて。長く牢城をせし。と使士をりて城  
 小谷へ加勢の氣をえらるが小谷は城ハ浅井父子横山の  
 後援せ心小ありと。朝倉の加勢来らる由へ再之飛騎と遣  
 して。義系出陣ありてゆら小といひ討ること頗あり。然ど  
 速しき接援あり。遠き。細く久政父子遠き。義系  
 右軍つが諜め一詞の胸は微つ。後悔されども令更を令  
 術もか。然もて右軍右軍つ小謀合せされ。遠き。義系  
 を知らず。早小主君は愚惑を嘆死。詔い。かど。義系  
 のつて勅むるも。嘗て用ひらまねが。辛勞まとも益ハのら  
 浅井家滅亡の期小至り。憂事を目前小視んより。ハ遠

の軍小幡收戦死なるといふ事とじと獨覺然を決まるといふ  
 とも朝倉勢の来らざるは軍もあらずぬ事とて只義直を恨  
 むて居たり。遠小幡倉義直の先達より移遣淡井長政  
 使者を以て加勢の詞を言投られざる。當て愕く氣多し  
 かく。出馬の準備もなさりされバ魚住備前守心を焦燥  
 進み出て會せしや。數日淡井家の使者を得ざる。河  
 出馬されハ何事ぞや。素子の軍ハ淡井長政當家ハ義直  
 こそ信長小幡討させし由ハなれ。従令使者を得ざるも  
 出陣さくしてハ偶々ぬ義直あり。淡井家父子のおもえくも  
 最死すくハバとづる。河出馬されハ河勢ありとも遣ハ  
 さま然と烈諫も。匹ハ又も淡井家より。駿馬來りて今の

も。防戦危くはし。備前出陣延引さる。自家一軍の勢を  
 りて有るの戦つらう。存亡のなとを極めんむと怨た合  
 とも謂哉。これハ義直守備ハ黙止小道なく。然るハ軍備の調  
 ふすも戦合の勢を遣ささんと一族あり。朝倉孫之助系  
 健たりて大將とす。一万余人を當添く。江列境ハ遣はし  
 勢漸く廿六日小幡の城小幡軍ハ淡井の君臣も執び  
 僅小幡を懸らる。朝倉勢の一万余騎ハ大寄山小幡際も有  
 る。陣宮と構ハ義直の出馬を相候る。恁る程小幡田舎ハ  
 朝倉勢の後援せぬも横山城を攻陥さんと單騎急小幡起  
 一。小幡田村野村大野本依火水小幡て拒抗といふ。方後ハ城  
 云悉く。牙斬。澁泥の條く。不。疲。果。向。々。牢。殊。あり。と。頗。小。幡。

一加勢を乞ふ。こま不依く。法井長政新く義家の出陣を  
 復命を乞ふ。横山落城せしむ。一戦紐む。こま。  
 亦七日の夜小至り。善政より巨功の勇士を著多る。果に  
 朝倉景健が陣小裏舎。軍後を録とて。謂る。遠大。家  
 山の陣不より。織田の本陣就る。果一ハ五十町余ありぬま。  
 馳行ひま。小人馬。直地小合戦。か。今宵寅  
 夜小遠地をう。桑。之田村色へ陣不を移。一宿。して。士  
 を休ませ。廿九日の夜。軍馬を發して。信長のお陣當り  
 不意を設。自軍の勝利必。定。と。粟。され。响。法井  
 半助。序を。進んで。出。是。ハ。頗。悍。勇。の。武。士。先。年  
 久政の不與を。行。濃。列。の。地。小。お。む。き。て。福。業。任。務。を。

小遊。若。し。し。頃。い。ま。織。田。法。井。親。好。厚。く。あり。し。小。より。  
 半助。精。信。長。の。軍。法。を。も。と。く。知。り。是。小。依。く。衆  
 小。抽。ん。で。長。政。小。若。て。粟。上。り。小。居。ハ。高。し。め。さ。り。わ。く。こ  
 桑。が。程。濃。列。小。若。く。織。田。家。法。軍。法。因。り。信。長。の  
 弓。執。風。ま。を。大。概。見。識。し。渠。ハ。原。兼。心。の。急。死。大。將。を  
 軍。法。展。轉。習。化。し。る。律。さ。好。く。信。長。の。本。傳。ふ。ご。こ。く。  
 身。の。居。下。小。智。者。あり。て。公。を。用。ひ。る。こ。と。電。波。の。傳。し。  
 然。も。ま。だ。遠。方。の。お。り。ふ。や。う。小。易。く。之。田。村。へ。通。し。只。願  
 く。バ。今。雲。時。敵。の。境。溪。を。伺。ひ。し。と。誦。め。ら。る。を。長。政  
 所。く。横。山。の。城。危。き。こ。と。目。々。小。あり。と。告。ぎ。せ。り。行。時。も。意  
 置。こ。と。し。敵。の。邊。り。止。ま。を。怖。し。と。て。釋。後。を。う。ち。横。山。を。攻

臨さきつば悔こも詮さ。教任まゝ彼城を別方小幡の方  
 術やあると云敷なる。駒遠藤藤赤右衛門將をこゝに列陣し  
 居るが。方儀すも半向も登害せむ。只管主は非運と  
 卜。元時も早く戦死せん。と心を決せし。機合なきは長政  
 の詞を可多しとして。いふも君が謀慮の如く。軍の方便なる  
 一。便と目を送るうらふ。横山城の谷士軍。自らの後援  
 されを恨む。降参を命じ死のふもあはむ。都て軍を大將  
 の心小信とて。重傳へり。君もや既小戦ふとおおしめし起  
 めるの如く。戦ふてこそ勝利なき。然りとし。ごも不意に  
 殿におがしゆ。うち買へるまじ。勇を極めて列陣を二を  
 こふうち破り。唯信長を殿扱ふことを。行要となし。至ふ

一。備陣將の駒小及んで。敵亦發せむ。こをを逐へ。地小  
 戦ひをいづれ。一國家のこめ小命を抛ち。忠義を達んと  
 歎き。身は敵に大軍も蟻蟻の像。いづれも遠遣の  
 合戦ハ敵の旗をへ給へり。大將信長を殿扱ふ。然るに  
 惣軍を逐前を歎。彼此をふらむ。あきとん。折きて陣せ  
 らるまじ。とや出陣の沂準備と。初め小長政。荒糸と笑  
 ひ。よくこそ重し。初めこは先孫之弟。系健小も。合戦兼儀あり  
 う。ハ兩隊の軍勢。左右小分。野村之田村より。推發せん。  
 敵ハ尾流。機この機。別まが中。極勇あり。よれ小恃むと  
 あり。あき。系健。折く。同く。うら。笑。小命。せ。あ。及。ぶ。れ。系  
 健。先。陣。發。る。う。ら。敵。と。一。戦。小。退。却。し。折。倉。武。士。の。綱。を。ま。め



遠藤  
喜右衛門  
心と決  
朋友と  
辞生の  
宴を做

前

豊田吉三編



豊田吉三編

さん登りうち起直すとて廿七日の終夜両家の武士皆  
借小出陣の準備頗あり然るに遠藤孫右衛門の頼て覺  
悟の脈を決し遠道は是非とも戦死して忠義を決石  
と共小せんと新金の友を呼集ひ酒酌合して謂けるや明朝  
自軍陣を撤さば信長く好らむ軍を拵めんこそ俺們が  
望む所あり各心を一致して卓小敵陣を突破せし信長を  
殺んと志意べし我小於るの明日こそ織田の本陣へ移  
是非小信長を殺殺ん倘倣換とる戦死するの之を繼令  
首尾よく信長を殺果するとのふとのこも自身の一事小降ら  
ん降下小一もあさくを定む敵陣小籠を残さん然るに今  
宵の糸合こそ現世の離別あるは是然るが信長を殺果

まろ小至るく最期の本望此上なく是下達も心を樹し  
忠憤義勇と拵んが死後の英名を考一とららむ胡盧  
どうけむふおと種々門禪し論使うち笑ふ敵敵敵  
益と唯運となくうち旋らし穉世をわらむ是も法士へ只願  
遠藤が勇字を烈まし言詞をらんと何の意も鷹をて各  
驍んく應ら右左小曉天迫られはちやうち殺んと  
具足しとる

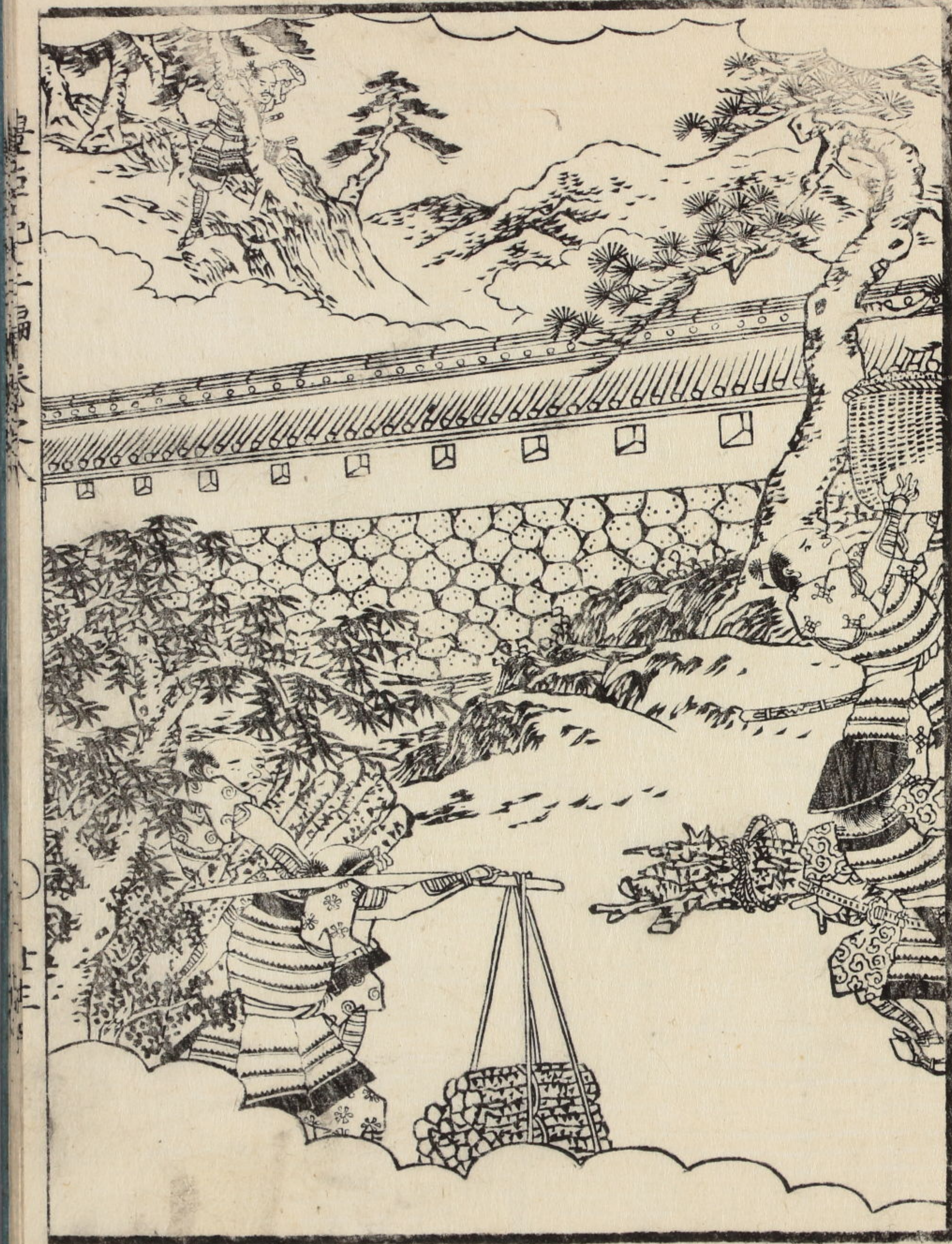
磯野員正殿織田五段隊属秀吉志感歌

英雄一遭激する响怒氣天小徹ると遠藤孫右衛門死を決  
して遂小信長の本陣を襲ふの忠勇全に豪傑あり然る  
小籠が鼻をうち陣中。信長もくも眺達しとるひ。新倉加勢

の魁隊部。淺井の陣小加らりて。大壽山の遠近小陣列せし  
 と。漸覺あり。ゆりく。火急小横山城を攻陥さん。と。さるる  
 然も城中今もや。朝倉家より加勢として。隣近く陣居  
 あるを復ら。自軍大小色を調へ。踏らへてぞ防戦を。然も小  
 七日は夜。木下藤吉舟唯一個。聲言峯小攀登。敵陣の横  
 根を窺視く。信長の本陣小あり。火急小軍を告あり。と  
 云出せし。大將小も。何事小やと。愕きながら。藤吉舟小對面  
 せらる。秀吉。腰弾て。響きとら。朝倉の助勢。敵小加らり。  
 淺井家。大小力を得て。定めて横山の後援として。合戦  
 と。細むべし。と。かりふ。小今日その。沙汰多し。義系の出馬を待  
 り。然も。然も軍小。味も。義系。急出陣し。し。こも

小より。淺井長政。翌日へ軍を。發めん。と。ち。準備頗  
 小作。小居。頑く。暮天のころより。敵の。曉。漢を。伺ふ。ころ。  
 甲夜。の。當。つる。事も。あり。漢。却て。つん。へ。つり。し。が。亥。の。刻。の  
 頗。比。より。倉卒。小。多。勢。を。焚。殺。せ。し。是。も。糧。の。積。累。小。  
 明日。の。あら。む。朝。敵。小。軍。せん。企。ある。べし。先。這。方。より。勢。を。操  
 出。し。半。途。小。於。く。戦。ひ。そ。し。め。ぬ。敵。の。計。策。相。違。し。て。自。軍  
 の。獲。利。頗。ひ。あり。ん。登。く。諸。將。へ。漸。指。揮。あり。て。漸。分。探  
 あり。然。も。べ。く。と。云。出。せ。し。泰。ら。む。小。信。長。表。脱。く。る。を  
 かく。尋。時。小。諸。將。を。召。集。め。翌。日。の。分。隊。を。定。め。ら。る。ま。う。づ  
 一番。へ。堀。井。右。邊。政。尚。父子。二。千。餘。人。小。て。打。發。さ。る。二。番。へ。池  
 田。勝。三。郎。是。も。同。く。二。千。餘。騎。之。番。峰。屋。公。庫。頼。四。番。と





豊田吉三巻之八

依久間右衛門尉。五番の森に在る。二千余騎を率具  
 せし。次小信長の旗本。前後左右七隊小隊とせし。  
 第一中央の魁隊。佐木下藤吉舟二千餘騎。左安藤  
 伊賀守右少右田又左清。大中心。小総大將。織田。彈正。忠平  
 信長。備ま。後陣。菅谷。九右衛門。川尻。共。清。福。富。車  
 左衛門。依。備。ま。横山城の壁守。少。以。茶。の。像。く。河。合。守  
 信。包。丹。羽。五。郎。左。衛。門。水。野。下。野。守。小。介。属。ら。遠。响。河。加。勢。小。河  
 強。て。一。方。を。退。治。と。望。ま。せ。玉。ひ。ろ。小。より。朝。倉。勢。小。向。を。せ。る  
 ち。大。幸。あり。と。言。へ。る。大。小。飲。を。せ。ら。れ。者。方。ら。ど。準。備。ま  
 て。夏。の。經。夜。の。待。際。も。あ。ら。ど。曉。を。く。る。ま。に。定。め。し。如  
 隊。伍。と。す。都。合。之。方。有。余。人。姉。川。常。く。推。發。を。然。か。ど。に

淺井方。少。言。詰。刻。を。り。小。軍。法。準。備。し。當。時。刻。小。も。至。り。し。也。  
 ち。の。や。出。陣。を。せ。し。と。曉。を。バ。六。月。廿。八。日。東。雲。晴。く。あ。り。時。頭  
 淺井長政。八千余人。越。前。の。加。勢。朝。倉。景。健。一。万。余。騎。を  
 率。從。へ。兩。邊。二。方。小。達。部。野。村。之。田。村。一。と。推。發。を。淺井  
 先。陣。の。大。將。佐。和。山。の。城。主。儀。野。丹。波。守。員。正。あり。原  
 兼。大。力。を。双。小。七。兼。更。も。敵。を。率。能。と。ぞ。殊。少。の。軍。小。別  
 こ。ま。の。細。作。を。出。し。て。伺。ひ。し。る。小。織。田。勢。既。小。出。張。し。て。ま。の。面。五。隊  
 小。隊。伍。を。續。け。次。小。信。長。の。本。陣。こ。ろ。か。四。方。七。面。小。陣。を。構  
 へ。大。將。を。守。護。し。ま。る。と。告。り。丹。波。守。り。ち。點。頭。實。小  
 然。も。あ。る。事。小。好。ん。と。望。も。動。ぢ。を。進。む。所。小。織。田。勢。生。れ。と  
 近。づ。き。倚。懸。隊。部。頭。の。隊。伍。より。号。砲。敵。軍。驚。喊。せ。つ。ら。り。と。也

豊田言三編巻之八

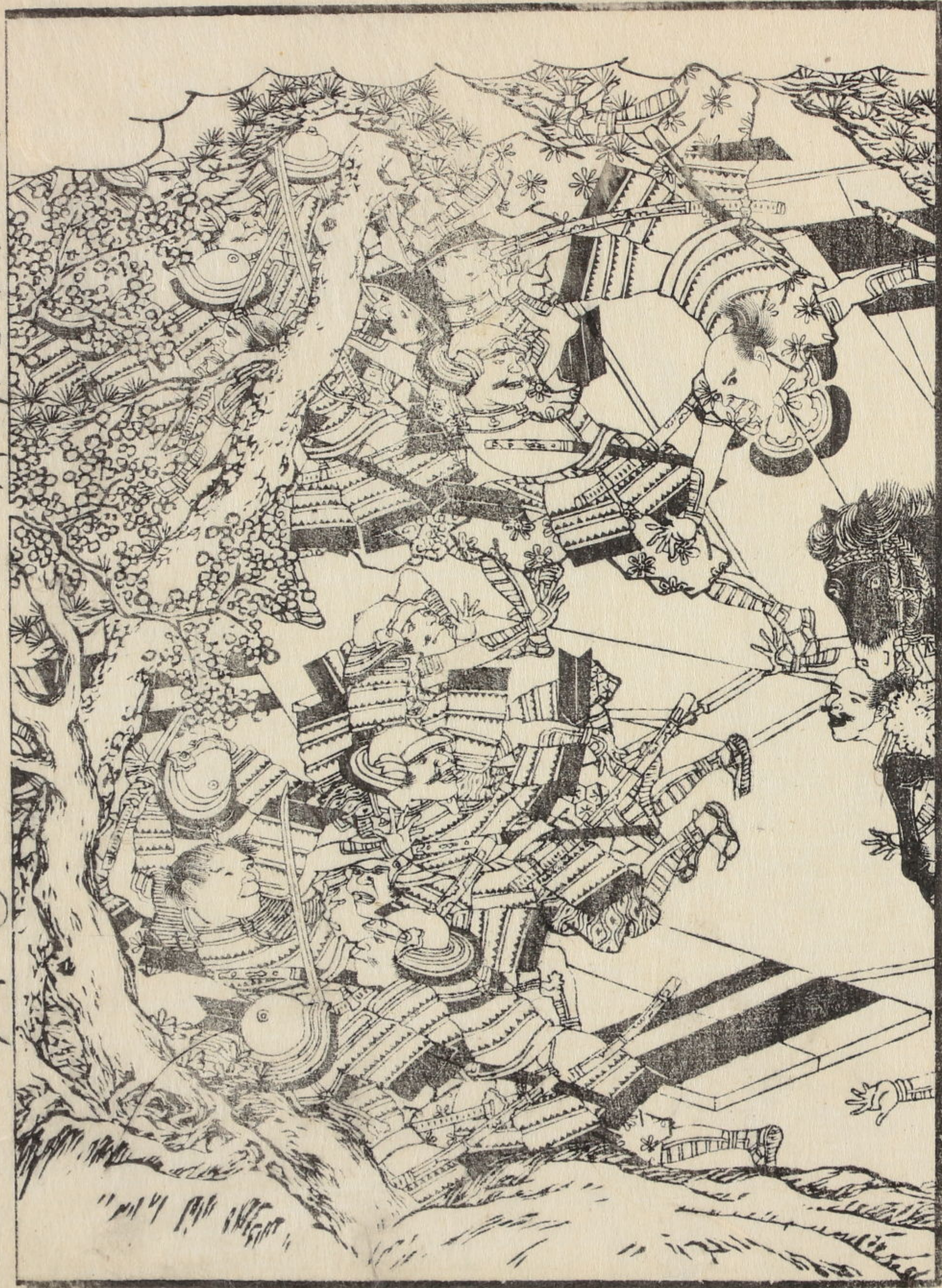


一なるこそ内小二隊の軍勢出素まばその妨もあらんと  
 残念ひくた右へ退く。二番の池田勝之舟信輝坂井小  
 將交り戦えんことを磯野が種威さうんうること。後壁洞城も  
 一樓小搦頼さんを取休小て。陣籠とじしも繕らるる池田陣  
 一面も揮らるる。葛地小致投る。憤怒虎の威と振ひか  
 進退退と音こして。搦ねどに斬やどに池田が公士依る  
 と棄るる。後へ落諸慮を沈視し。得るや應と丹波も遠  
 勢威小懸本もて。突投んこところと前と前後左右小當  
 とさひとひ。死名の像く弛旋す。搦仕く擇きり。あまに  
 従ふ勇士輩生死を知らず。池田の軍勢これ  
 為小。瞬もる際もあらばこそ。遂小同と突頼まて。乳縫ぐ

傷之新崩起る。自公の隊仕達整をととの偶ら多。兵士を損  
 せぬそのうち小諸士と左右へ退去せし身も共小退り。諸  
 之番の蜂屋公庫頼隆二十余騎を推出し。池田小代らん  
 とひす。取と磯野いよく種威とあつ。一と声喚ひて。果騎  
 急小蜂屋が隊仕へ突て。投烈火の像く小攻着る。公庫  
 頼が公士輩。繪合とるる。只一樓小麓崩さる。右側  
 左倒小混乱せり。四番の佐久間右衛門蜂屋小將交りとし  
 出とと磯野が勢へ生地と攻小。之番隊と進致し。蜂屋が  
 公軍慌忙と左右へ困く小途と失ひ。四番隊仕へ蜂屋と  
 こま壁便と丹波も。頼小退極る。小佐久間が軍勢これ  
 小障らる。是小纏う。自由と得を磯野が公士の得小。

息をも治で接起りて。佐久間信盛、斷をばし、心は猶小  
 暢とていとも同士、殿あらん事と臆を、指なく戦て。左右へ親  
 と遣せり。五番の隊、伍の森、こた束の可成先隊、四隊の敗を  
 ころと或の親り、或の警に、淺井が先陣、いりある者、山へ近  
 種、勇あり、るぞ不審、ことと、喧まらぐら。二千余人を、真鑱小  
 そまへ、敵へ斬りて、戦ふこと、まじ、將率、とも小疲、まらるぞ、遣ひ  
 返さる、あまらるぞと、自慥を、烈し、推發を、然る小磯、丹  
 丹波守へ、あまらるぞ、四隊の敵を、破り、いりく、驍んで、逆襲  
 あり。進んで、目面と、能と、視る小、遠一隊と、斬破、く、直小、佐長  
 の、諸、ありと、雀躍、りて、自軍を、頼、勝、遠一隊を、破り、まじ。  
 直地、小、織田の、諸、本、まらるぞ、而、怯、まらるぞ、勢、力を、竭、り、破、崩

さきよと、烈しく、指揮、み、島地、小、掘、投、り、丹波、寺、余、り、に  
 強く、掃、き、て、澹、々、鈍、と、編、折、り、り、由、(大、吉、刀、記、記、視、揮、也、し、  
 森、が、隊、伍、小、斬、り、入、り、た、平、小、難、起、右、手、小、次、休、走、向、敵、の  
 あり、り、や、と、四、角、八、面、小、強、起、ま、り、こ、ま、小、強、ひ、て、宮、赤、田  
 大、淵、山、崎、が、將、率、こ、も、小、惣、勢、九、千、有、余、人、恰、も、波、濤、の、起、り、  
 が、像、く、喚、叫、ん、で、突、發、な、し、火、烟、を、散、ら、り、て、戦、ふ、小、を、本、三、  
 た、島、の、小、勢、少、く、慥、ま、ら、り、こ、の、あり、(こ、も、我、遠、隊、伍、を、敗、ら、れ、な、バ、  
 諸、本、の、漸、陣、危、ふ、ら、ん、小、臨、境、へ、ど、ん、バ、あ、ま、ら、る、ぞ、と、諸、率、  
 小、烈、しく、指、揮、を、傳、へ、遠、口、を、告、途、と、防、戦、し、り、り、佐、長、の、  
 休、と、漸、覺、あ、り、り、り、可、成、が、軍、危、ふ、ら、。渠、倘、敗、軍、を、ま、ら、ん、が、  
 敵、ま、直、地、小、難、か、へ、推、逼、来、ら、ん、早、く、之、を、た、島、つ、と、接、く、下、と、



豊臣討三将巻之八

十



磯野の勇烈  
織田勢の  
五段隊列  
と破る

豊臣討三将巻之八

十七

河指揮ありと木下秀吉君少のたししも河心を勞させ玉ふ  
傳われ秀吉は小勅へてはばいりなる剛播の敵もあきなど  
河旗本を乱入させ玉ふ。方儀推進る磯野が勢へ小官退  
返し重なる。と自若としてまがる。遠者と尋常小戦ふ。破  
る。とありひりまは自勢二千余騎のうち二千の兵士をた右  
小之巻流あま、構へさせ。謀を謀合。儲まると残りの一千余  
騎を六。秀吉まづ々率從へ故意隊位を散れ。恐  
怖なり。とあり。休ふとせうけ。正面小勅へさせ。然して森が陣中  
へ使番の兵士を遣らせ戦ひ危く見へ。早く河隊を退揚  
らも軍へ木下へ河旗本あきと重送る。しるべ可成もえとゆ  
より。保ちごとく見せると人方儀の兵士も疲まると機合を幸ひ

木下より。退揚。つとよと言越れば。強少もとあり。操遣小。  
た右へ親とあり。ぞれりる磯野。原素信長の旗。小撃  
投了。簡ひまは。退去。敵小目せうけを。真一文。字小。能。當  
く。早。近くと進倚り

繪本豊臣勳功記之編卷之八終

豊臣記三編卷之八

七

